



ららばい、通信

2023年
春号

特集
スマホって本当に大丈夫？

言葉は 風に似ているね



画／大野隆司

[目 次]

- 特集「スマホって本当に大丈夫？」 …2
- 連載 「太極 この道を行く」(承前) 帯津 良一 …14
- 【対談】川島 隆太×西館 好子 …3
- 連載 直島便り 「私の命 他の命」 山根 光恵 …16
- 連載 遊びをせんとや わらべうた 童謡 詞華集2 尾原 昭夫 …6
- COLUMN／『配食卒業 お疲れ様』 …17
- 連載 子ども虐待は、今 「トラウマ」 川崎 二三彦 …10
- 活動報告 …17
- 【インタビュー】長田 暁二 おめでとう 音楽文化資料博物館オープン …12
- 寄付者名簿 …17

2023年4月発行

令和5年

ららばい通信 春号を お手元にお届けさせていただきます。

待たれた春の訪れ。

下仁田女性村設立「ねぎぼうずプロジェクト」に関わって二年が過ぎようとしています。上州空ろ風の本場下仁田には厳寒の冬は行かずになりましたが、三月に入って、さあ始動とばかり出掛けて行きました。

3月2日、この日は本当に暖かく春の香りが感じられる陽気でした。ウキウキする気分です。道の端に黄色い福寿草がほっそり顔をのぞかせています。12月に葱の青々繁っていた畑はすっかり整備され土が次のタネ植えを待っているようです。

「ここからはこれから一番美しい景色」の前触れか、紅白の梅の花が既に八分咲きで山に色を添えていました。下仁田の知り合いの家で(万両)の鉢植えをいただきました。赤い実が満載に咲いた万両は、千両万両の二つ、縁起のよい花として新年には欠かせないものですが、正月すぎた春にまだまだ満開、伺えば霜にやられないよう室内で育てられたものでした。また冬に実をつけるよう手入れ法を教えてください、大事に抱えて東京まで持って帰りました。春は本当にいい、身も心も軽くなるし、眼にも優しい。

花の下に子どもの歓声やわらべ歌が聴こえれば、まさに桃源郷の郷土の風景ということになるのだが、今はその子ども達の声や歌声が聞こえてくる里等めつたにあるものではない。日本の最も日本を感じさせる季節の風景がなくなっていくことを惜しむのはすでに老いの感傷かもしれませんが、あきらめることはいつでもできます。

市川にある私の家の玄関は一年中花が咲いています。プランターに植えたパンジーは冬に強く様々な色合いで秋の終わりから春まで咲いています。通りすがりの人は時々足を止めて「きれいね」と言ってくれるし、通学中



の子ども達も花に触っています。夜はラントンがあちこちプランターに灯をとますのでこの道は恐くないと言われています。そう、自ら花の演出というの老いの智慧、そう思い今年花を植え、春を楽しむことにしよう。

日本ららばい協会 理事長 西館好子

唄のページ

金沢の子守唄

「ゆんべゆめみた」

昨夜夢見た 地獄の夢や
鬼が餅つきや 閻魔さんがちぎる
鼻欠け地藏が 食いたがる
われも食いたけりや てったいせえ
てったいしょうにも たすきがない
隣行つて借つてこい
隣の婆々はお茶婆々
かき餅焼けてへそ焼いて
その手でお釈迦の顔なでた
お釈迦臭いにて 鼻つまんだ

長野の子守唄

ねんねん ね山の こめやまち
こめやのよこちよを とおるとき
ちゆうちゆう ねずみが ないていた
なんの ようかと きいたらば
だいこくさまの おつかいに
ねんねしたこの おつかいに
ぼうやも はやく ねんねしな
だいこくさまに まいります

子どもの声

日本ららばい協会 理事長

西館好子

「子どもの声は天使の声」と言うて目を細めたのはNHKの専務(故)でいらした野村忠夫さん。お子さまがおいでにならなかつた野村さんは子どもが大好き

「君、寝床でウトウトしている朝にあの声を聞いてごらんよ、天国にいる気分だよ」

子どもの声が騒音などと聞いたら目を白黒されるかもしれない。

確かに子どもの声は甲高い。しかし、騒音と不快に感じる音ととらえる人とはいったいどんな感覚の持ち主なのだろう。聞いただけで不愉快だ。

子どもの遊ぶ公園の撤廃を求めた教育者もいたし、幼稚園で飼っていた鶏が朝鳴くのはけしからんと幼稚園の移転を申し出た夫婦もいた。その後公園は無くなったときくし、幼稚園のわとりも夜の仕事をしているご夫婦の睡眠の妨げになるというので、飼うのをやめてしまった。

どちらにしても、自分だけよければいいという現代の風潮そのも

の身勝手な言い分に屈したことになる。

そういえば以前ピアノの音がうるさいとご近所トラブルの末、殺人事件に発展してしまった事件があった。赤ちゃんの泣き声で眠れないという隣人に気を使うあまり育児ノイローゼになった母親が我が子を殺してしまったという事件もあった。

こんなにヒステリックで殺伐な世の中に子どもが伸び伸びできるわけがない。

赤ちゃんのお耳は ちいさなお耳 ちいさなお耳 ちいさなお耳 ちいさなお耳 ちいさなお耳 ちいさなお耳 ちいさなお耳 ちいさなお耳 ちいさなお耳 ちいさなお耳

赤ちゃんのお耳は きれいなお耳 きれいなお耳 きれいなお耳 きれいなお耳 きれいなお耳 きれいなお耳 きれいなお耳 きれいなお耳 きれいなお耳 きれいなお耳

赤ちゃんのお耳は かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳

赤ちゃんのお耳は かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳

赤ちゃんのお耳は かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳 かわいいお耳

こんな情景に心覚えのない人が子どもの声を騒音ととらえる事しかなれないのだと私は思う。きっと悲しい子ども時代だったのですね。

福島はなづくし

ひとつひらいた ふくじゆそう
ハア めでたい めでたい
ふたつふむなよ みちのすみれ
ハア めでたい めでたい
みつつ みごとなさくらばな
ハア めでたい めでたい
よつつよざくら これまたきれい
ハア めでたい めでたい
いつつ いつまでそいてる せんいちそう
ハア めでたい めでたい
むつつ むらさき あやめばな
ハア めでたい めでたい
ななつ ならんだ きくのはな
ハア めでたい めでたい
やつつ やまゆり たかねのはなよ
このつ ここにもたんぼぼのはな
ハア めでたい めでたい
とおで とげある ばらのはにな
ハア めでたい めでたい

茨城の子守唄

ねんねんおころり ねんころり
ねんこしておきたら なにあげよ
じよじよか(ぞうり)か お菓子か 落雁か
落雁くわせて はらませ
はらませ 大きくなれ お江戸にやるぞ
お江戸じゃ ちんちん ちりめん着物
いなかじゃ ぼろ着て 菜種まき 菜種まき

特集

「自然で脳を洗え」そう提言下さった
川島隆太先生を再度仙台までおたずねしました。

スマホって本当に大丈夫？

テレビがお茶の間に登場した時、その是非をめぐり大論争がまきおこりました。

これをうけて放送文化基金は助成金を出して「テレビのある時代の赤ちゃん」という提言の研究課題を当時の国立小児病院の院長である(故)小林登先生に委託しました。私はその事務局長でした。

あらゆる分野の諸先生に実験や研究をしていただき、その結論はいえ、テレビは使い次第、子どもには、生の声を聞かせながら、あるいは生活の中の実像を出しながら接することで役に立つというものでした。

「スマホ」の是非が問われている今、大方の人がスマホに依存する社会がやってきてしましました。まだろくにしゃべることもできない子どもがタブレットを使い、小学生はGPS機能が付いたスマホを持つ時代です。

しかし、それを生み出したアップル社のスティーブ・ジョブズ氏は自分の子どもには厳しく使用時間を制限していたとされ、同じくマイクロソフト社のビル・ゲイツ氏は14歳になるまで子どもにスマホを持たせなかったと聞くと、やはり、

もにスマホは持たせなかったと聞くと、やはり、相当な問題があるのではという不安がよぎりました。

事実、当協会への相談のダントツはスマホと子どもに関するものとなりました。親は一喜一憂しているといった訴えです。

確かにスマホは便利さと合理性で生活に根を張っていることは事実ですが、全てはこの小さな機械の中に温存されているだけではなく、歴史も年代も事件も何もかも即表示されます。疲れたら音楽を聴くこともゲームで遊ぶことも可能です。災害や地震の通知までしてくれます。世界の情報も手元に届くのです。私たちは万能な頭脳と情報を持ち歩いて

いるという事です。これを人間が作り出したので、いくら「知」の世界に貪欲といえ人類の究極の叡

智の集合という事だと思

うと、私などは未恐ろしい感じがします。スマホが無かった時、わからないことは勉強したり、人に聞いたり、書物を紐解いたり、興味があれば読書や先生に聞いたり、友と議論したりと、何か(あるいは誰かが)介在して成り立つ世界にいたはず。

何かの介在とは、身体を使い、物を感じ、考え、誰かと会い、頭を働かせ自分で考えをまとめる作業です。それを私という人間がするのはなく、全て機械がしてくれるのですから、仮想世界は無限に広がっても現実世界は静止したままとはならないのでしょうか。そこがとても疑問です。

スマホを使った凶悪事件の犯人が逮捕され、その映像を見る時、犯人たちが、まったく無表情、悪びれる様子もないことに驚かされます。

そう「心」の喪失、精神の不調がはびこる世界が本当に人間の世界と言えるのか、そこに未来があるのか、を懸念するばかりです。スマホはその代表格。

テレビが日常に家具のごとくあるように、スマホも同じ当たり前の生活家具となるにしても、その時人類は大きなしっぺ返しを食らうかもしれないというのに。



智の集合という事だと思

うと、私などは未恐ろしい感じがします。スマホが無かった時、わからないことは勉強したり、人に聞いたり、書物を紐解いたり、興味があれば読書や先生に聞いたり、友と議論したりと、何か(あるいは誰かが)介在して成り立つ世界にいたはず。

何かの介在とは、身体を使い、物を感じ、考え、誰かと会い、頭を働かせ自分で考えをまとめる作業です。それを私という人間がするのはなく、全て機械がしてくれるのですから、仮想世界は無限に広がっても現実世界は静止したままとはならないのでしょうか。そこがとても疑問です。

スマホを使った凶悪事件の犯人が逮捕され、その映像を見る時、犯人たちが、まったく無表情、悪びれる様子もないことに驚かされます。

そう「心」の喪失、精神の不調がはびこる世界が本当に人間の世界と言えるのか、そこに未来があるのか、を懸念するばかりです。スマホはその代表格。

テレビが日常に家具のごとくあるように、スマホも同じ当たり前の生活家具となるにしても、その時人類は大きなしっぺ返しを食らうかもしれないというのに。

INTERVIEW

【対談】 川島隆太×西舘好子

今の子どもには 大人の声は響かない

スマホが無ければこの世は終わり、くらいに本気で考えている人がいる。

それほどスマホに依存度が高くなってしまった現代社会。90パーセントの保有者が一日5時間余りはスマホに向かっている時代、果たしてそれがいいか悪いか、悪いに決まっているが、この先の世はどうなっていくのでしょうか。

西舘 三年前から協会ではシングルマザーの応援として「相談室」を設けています。

去年までは子どもがスマホから離れないで困るという親の相談でしたが、今年はやめさせようとすると暴力沙汰になってしまおうという相談に変わりました。聞いてみると多くの家庭でスマホによる争いは絶えないし、スマホの話題でキレる子どもが多くなったという事です。どうしたらよいかと。

川島 残念ながら「手遅れ」かもしれません。

すでに感情制御ができなくなってしまうという子どもだけではなく、学生でさえ「キレる」という兆候は変わりません。スマホの副作用、



▶川島隆太氏経歴

1959年生れ千葉県出身 医学者 医学博士
東北大学医学部卒業、同大学院医学研究科修了。現在、東北大学加齢医学研究所所長、東北大学スマート・エイジング学際重点研究センターセンター長などを務める。

使えば使うほど不安と恐怖が多くなる。自尊心が低くなっているのでは。

西舘 子どもの場合、勉強にも影響がありますか。

川島 タブレットを使っている子の成績は、使っていない子より成績が悪いです。

機械の特性は情報発信ですが、脳はその情報を処理する場所です。自分のこととして考える思考や行間を読むという人間本来のこのころの活動を機械を使っておこなうことは困難です。未知なる部分の刺激を促し、活性化させる働きは脳にあるのに、脳本来の動きを機械に代えさせてしまうということでのその成績は下がるかと知って欲しいです。

実際、こうしたことはデータが正確に示しているのですが、今は国上げてタブレットの普及に力入れていますから、未来は不安です。

西舘 その通り、以前文科省の関連団体の役員人選の方とお話した時、脳にとってスマホがいかに危険かという話になりました。脳の分野で川島先生のお名前が挙がりました。その時、先生が、教育にタブレット導入は疑問をお持ちだということ、役員には選考されなかったと伺いました。

国を上げて、小学生から機械導入の現在、メディアもそれを推進している感があります。怖い話です。

川島 害があるという事を言い続けるために、僕は科学者としてより具体的なデータを提示してその証拠を見せることにしています。科学に対する信用度を使うしか今は手段がありません。



しかし、子どもにとって教育ばかりでなく、保護者である親、もっと先に行けば社会の仕組みに問題があるのでは。

西館 今、日本が置かれている現状は子どもの未来を考えるより、経済が優先で、大事なのは子どもよりお金だという事ですね。

川島 事実、ゲームにしてもアプリにしても、心理学や依存性をよく研究した人が、綿密に、魅せられ、依存する要素を盛り込んで作られています。これでもかこれでもか、それこそ金に糸目も作らずに、売らんがための努力をしています。
それは依存性を強力に高める心理的ワナなのです。

西館 うがった見方ですが、それに日本人は対抗できないのでしょうか。
川島 まあ、戦後のJHQの日本人教育の成果かもしれないということでもありません。

西館 保護者である親の責任もあるのでは。事実、家庭という普通の生活と、安らぎと心の成長を日常に教える場、安心して話が出来る、眠れる場がなくなっています。学校も生徒に何も言えない。児相も家庭という領域に口出できない...すべての劣化が子ども達にスマホ中毒という現象を引き起こしている。

川島 結局、自分のこととして考えるという大人たちの姿勢が欠如している。

私は下仁田の自然の中で、子ども達が何日かを自然と共存して遊んでいけるような施設を創りたいと考えています。

川島 電波の届かない場所で不便な生活を楽しませる。子どもは何かあるところでも必ず何か見つけます。また、高齢者や幼児などの世代間交流もいいですよ。

西館 はい。何もしない教室なども考えています。

川島 日本の未来を明るくするため、今、まさに日本にブレーキが必要な時期です。経済が大切な、子どもが大切な、皆がよく考えてもらいたい。そして少なくとも、子ども達の未来よりも、今の経済が大切だという現状の誤った認識が肥大していくのだけは止めたいと思います。

親が子どもの未来を本気に考えない。どんなに一人の人間を育てることが大変か、成績が下がれば学校のせい、病気になるれば医者がいる、児相は何の手も打てない。すべてが責任転嫁で逃げていく。
人と人のコミュニケーションの大切さを機械が代行できるはずがありません。
多くの子ども達が、条件反射的な行動、他者の痛みはわからない、自分の世界に入り込んでしまうなど、さまざまな社会的不適合状態に



なりつつあると感じます。

西館 うつ、引きこもり、反対に無気力、突発的な発作や犯行などの原因がスマホにあってもおかしくない要因は、おおいにスマホにあるということはおかたづけました。
バーチャルつまり現実から離れた仮想的な世界に入れば、人間性が失われていくという事で

スマホに対するアンケート

- 永遠にしていきたい (小学五年生男子)
- いいじゃないですか、子どもの居場所が分かることが一番の利点 (2歳の母)
- なければそれだけの事、あるから使うそれだけの事
- 知らない人と知った気分になれるのは刺激的 (小学五年生男子)
- テレビがあまりにくだらないから、スマホの方がおもしろい
- みんな自分のことアピールしたいんだと自己顕示力の固まり
- 人間今に頭だけの化け物になっていくんじゃない
- うちでは誰も話しません。みんな自分のスマホとお話しているから
- くら寿司に行ったけど家族の会話無し。何食べたのか覚えていない。お母さんだけが家族の団らんねとっていただけと何なの (中学生女子)
- お父さんもお母さんもスマホにはまっています、とうとう別室、夫婦関係どうなっているの、スマホの方があいざされているよね (中学生男子)



すよね。では、どうしたらいいのですか？

川島 電波が届かない所に行かなくてはなりません、なくすことが出来ない以上法規制出来ないのではないのでしょうか。未来を見据えた対策を国にとってもらいたいです。

私は脳科学の世界の中で、事実を突きつけることで科学者の声を上げていくとされている一方で、こうした機械を多用することが遺子とどうかかわっているか、もっと掘り下げていきたいと考えています。

また、認知症の分野から、動かなかった脳を正常化させていくというトレーニングの結果、寝たきり老人を家に帰すまでになった事実を知ってもらいたいと思っています。しかし、それが本当だとすれば、介護施設は儲かりませんか(笑)、また社会への不信感はどうにもぬぐえませんか。

西館 同じかもしれないですが、シングルマザーの半数に近い方たちはクリニックに通っていて、それなりの病名と薬をもらっています。皆淋しく病んでいる現状ですから、そうなのだと納得していますが、睡眠薬や導入剤、精神安定剤を処方されています。そこにもからくりがありそう。

川島 まあ、精神的な苦勞は多いでしょうが、話を聞くだけでは医者は食べていけません。病名と薬の処方、まかなえるという仕組みがあるから何とかやっていける。
これが行き渡っている社会なので今は。

西館 以前先生は「緑で脳を洗う」と提言ください



- スマホ忘れたって、出張するはずの父は汽車に乗らず帰宅、スマホないと何にもできないんだ、今度はスマホで長々いかなない理由を書いていた。バカみたい (高校二年女子)
- 娘のスマホに制限をかけ、一時間しか使えなくしてしまいました。まるで腑抜けのように使える時間待っていました。精神病にならなにか心配
- スマホ取り上げられると言ったら息子が刃物を三丁うちかれました。結局また渡してしまいました
- 夫婦の会話をしなくなって二年がたちます。ラインの方が簡潔でいいし、通じ合います (夫婦)
- 将来の夢はユーチューバー移動しないで稼げるじゃない (大学生男子)
- 実物の女って面倒くさいじゃない、性欲だけなら赤線復活してほしいよ。スマホと赤線なんか面白い取り合わせなんじゃない
- スマホのお陰で何もかもできる気持ち、スーパーマン、機械の操作だけで大人なんかちょっと怖くないよ (小学生女子)
- AIに結局は負けちゃうんじゃない、人間の存続が終わる時が来ているんだから。

遊びをせんとかや

わらべうた 童謡 詞華集2

わらべうた研究家 尾原昭夫

芸術に生きた後白河法皇

惜春之図
上村松園画 日本の名画808



時は平安末期、源平の盛衰、武士の台頭と大きな時代の大波にのまれつつ、権謀術数にたけ、「日本第一大天狗」和漢の間に比類なき暗主なり」なども評されて、どちらかといえば嫌われ者の後白河法皇であるが、じつは前回の本稿「降れ降れこ雪」をうたわれた鳥羽帝の第四皇子であり、幼いころから歌謡を愛し、特に貴重な今様への集成『梁塵秘抄』を撰述し、さらには「年中行事絵巻」「地獄草紙」「病草子」など多くの絵巻物の制作・収集にも関わるなど、歌謡から美術にわたる芸術面で多大の業績を残した、日本文化史上揺るがぬ存在であることを忘れてはならない。注目すべきは、「梁塵秘抄口伝

集 卷第十一に自ら記されるように、「上達部・殿上人はいはず、京の男女、所々の端者、雑仕、江口・神崎の遊女、国々の傀儡子、上手はいはず、今様をうたふものの聞きおよび、我が付けてうたはぬものは少なくやあらむ。」と、後白河法皇ご自身、殿上人から遊女にいたるまで、貴賤の隔てなく、広く今様を聞き、ともに歌って学ばれ、記録に残された生涯であられたのである。

遊びをせんとかや生まれけむ

今様とは本来、今風とか当世風の意味で、当時流行の今様歌をさす。私は常にいませども 現ならぬぞあはれなる 人の音せぬ曉に ほのかに夢に見えたまふ（梁塵秘抄 卷第二 法文歌・仏歌）のように詞型七五の四句を基本とする。後で旋律を見るように、遊女のうたう今様といえども、今われわれが耳にする流行歌とは格段の相違があつて、歌詞・音楽両面においてきわめて芸術性の高い歌謡であつたことがわかる。

遊びをせんとか生まれけむ 戯れせんとか生まれけん
遊ぶ子どもの声聞けば 我が身さへこそ揺がるれ
（梁塵秘抄 卷第二）

舞へ舞へ蝸牛

舞へ舞へ蝸牛 舞はぬものならば
馬の子や牛の子に蹴ゑさせてん 踏み破らせてん
実に美しく舞うたらば 華の園まで遊ばせん

舞え舞え蝸牛よ。舞わないようだったら、子馬や子牛に蹴らさせてしまおう、踏み割らせてしまおう。ほんとかわいく舞ったなら、花の園にまでも遊ばせようね。
（同書）

鼈が笛吹き猿奏で

茨小木の下にこそ 鼈が笛吹き猿奏で かい奏で
稲子磨賞で拍子付く
さて蟋蟀は 鉦鼓の鉦鼓の好き上手

〔訳〕
茨の若木の下で、鼈が横笛を吹き、猿が舞を舞い、そら猿が舞い、いなごは囃したてて拍子を打つよ、さて蟋蟀は得意の鉦鼓、その鉦鼓のまさしく名人だ。
（梁塵秘抄 完訳日本の古典34 新聞進 外村南都子校注訳）

蛙の田楽(部分)
鳥獣人物戯画 日本の絵巻7 中央公論社



わよわよ蜻蛉よ

わよわよ蜻蛉よ 堅塩参らんさてあたれ 働かで
簾篠の先に 馬の尾縫り合はせて かいっ付けて
童冠者ばらに繰らせて 遊ばせん



疾走する馬
年中行事絵巻 日本の絵巻8 中央公論社

それは形式的にも西洋音楽の歌謡形式に近く、起承転結の四段にまとまった、雅楽へ越天楽への筆箒や龍笛の奏法を覚えるために口ずさむ「唱歌」の旋律に、七五調の今様の歌詞を載せたもので、貴族から庶民にいたるまで永く広く愛唱されてきた。「春のやよいの あげぼのに 四方の山べを見わたせば 花盛りかも しら雲の かからぬ峰こそ なかりけれ」慈鎮和尚作。慈鎮（一一五五〜一二二五平安末）鎌倉初期）は本名慈円、天台僧正。自身の歌集『拾玉集』に「今様」として載せる。この「春の弥生」は明治一四年の『小学唱歌集（初）』に別の旋律（作曲者不詳・長音階）で載るが、当時よく歌われた唱歌「南朝五忠臣」（「笠置の山を出でしより」作詞者不詳）では越天楽今様の旋律を

今様の伝承旋律3様

今様「春始」
(はるのはじめ)
編ならびに楽譜制作 尾原昭夫
芝祐泰 編著
『五線譜による雅楽歌曲集』より

越天楽今様
「梁塵秘抄」より

讚美歌今様
慈鎮和尚作「春の弥生」

使用している。これが明治一一年の「保育唱歌」に載るといふ説があり、筆者が調べたところ百編ほどの「保育唱歌」の中には該当するものは見当たらなかった。そして明治二三年名古屋法雨協会刊「法雨玉滴」の土岐善静作詞「法の深山」（法の深山のさくら花）でふたたび越天楽今様の旋律が用いられ、おそらく宮澤賢治なども小学生時代に父の主宰する仏教講習会で教わったようである。

一方、明治時代の讚美歌第百（現行二四五）「悔改」（おもいはずもはずかしや）に用いられた、さらに別の今様旋律があって、それをへ讚美歌今様と呼んでいる。それを基に

注1 楽譜の「春始」は「梁塵秘抄口伝集 卷第十一」に「春のはじめの梅の花 喜び開けて実なるとか 資賢、第三句を出だしてはいはく、御手洗川の薄氷 心とけたる口今かな とうたふ。」とある一節。

注2 「春始」の採譜者、芝祐泰（しげすけひろ 一八九八〜一九八二）は雅楽師。国立音楽大学教授。日本芸術院会員。「古伝の今様」は父祐夏より綾小路流として伝えられたところを、文安五年（一四四八）書写の洞院入道前内府満季（内府二四二四〜二四二六）譜などを照合して採譜したものである。」という。

去来れ独楽

去来れ独楽 鳥羽の城南寺の祭見に
我は罷らし怖しや 懲り果てぬ
作り道や四塚に 焦る上馬の多かるに

〔訳〕 「さあさあ行こう、独楽よ。鳥羽の城南寺の祭見物に」 「わたしや行くまい、こわいこと。もうこりこりしたよ、



とんぼ釣り
西川祐信画 絵本西川東童

〔訳〕 じつと待っているんだよ、蜻蛉よ。堅塩をあげよう、そのままとまっているんだよ、動かないでね。篠竹の先に馬のしっぽの毛を繕り合せて、そこにおまえをくくりつけて、子どもや若者たちにくるくる回させて遊ばせてやろう。

（同書）

今様の旋律

今様の本来の旋律はヘメリスマ様式、つまり小泉文夫のいわゆる「八木節様式」（シラビック様式）に対する「追分様式」で、歌詞の一語一語を長く延ばし、細かい小節を伴うかなり複雑な旋律であったらしく、しかも歌詞によってそれぞれに違う節でうたわれていたと考えられ、その故に簡単には覚えられない修得の難しい旋律であったと思われる。それが後白河法皇をして生涯を通じて日夜愛唱せしめたゆえんでもあつたらう。しかし、それに対して比較的容易に歌うことのできる越天楽今様と称される旋律もあつた。

独楽に熱中する子どもたち(部分)
絵巻「暮帰絵」より



城南宮の祭と思われる情景
年中行事絵巻 日本の絵巻8 中央公論社

作り道や四塚に、いらだつ跳ね馬が何頭もいて

（同書）

トラウマ

子どもの虹情報研修センター 川崎 一二三彦

万引き少年

小学校で麻疹のよう^{はしか}に万引きが蔓延したとき、実は私もその一員だった。学校の購買部から文具をちよろまかし、駄菓子屋の店先からあめ玉をポケットに突っ込む。今考えると、児童相談所に通告されてもおかしくなかったのだが、全員が校長室に呼ばれてこっぴどく叱られ、注意だけで終わった。客観的には軽微な事件だったかもしれないが、この出来事は、私の未来を、大げさに言えば人生を変えたとも言える。というのは、思春期にそれが重荷となつてのしかかつてきたからである。

「一体、自分は どうしてあんなことをしたのか」 自業自得ではあったが、悩み続けた末に見つけたのが心理学。大学では迷わず心理学を専攻し、気づくと30年以上を児童相談所で勤務したのである。だから、虐待を受けた子どもたちを前にすると、いつも考えてしまう。

「彼らは、自分では避けようがない過酷な体験

を強いられている」

「過去の私の悩みに比べたら、その苦しみはおそらく何十倍、何百倍。計り知れないな」

こうした彼らの体験が「トラウマ」と呼ばれているものだろう。トラウマとは、「個人の対処能力を超えるような大きな打撃を受けたときにできる精神的な傷」と言われている。言い換えれば、「生活上のある体験によってもたらされる（死の恐怖を感じるような）重い心の傷」と言えるかもしれない。

トラウマの発見

ただし、トラウマという概念やPTSD（心的外傷後ストレス障害）—トラウマを受けた場面が突然脳裏によみがえり、思い出したくもないのにそのことばかり考えてしまうような状態—が日本でも広く知られるようになったのは、1995年の阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件以降で



阪神淡路大震災 写真提供:神戸市

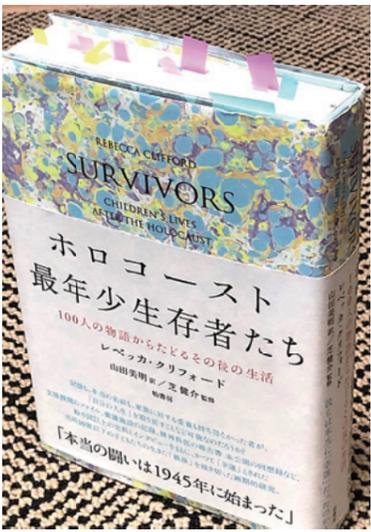


地下鉄サリン事件を報じる朝日新聞

はないだろうか。それまで、トラウマに対する理解は決して十分とは言えなかった。たとえば、サリンの被害に遭ったある女性は、「事件のことを何度も思い出して、眠れなくて、当時の夢を見たり、地下鉄に乗ると気持ち悪くなる。動悸と息切れがひどい。心臓が痛くなったりする」といった症状が顕著だったが、最初にかかった大病院では、「思い過ごし、もともとそういう要素があったんでしょ」などと言われたという。

ホロコーストの子どもたち

歴史的に見ても、トラウマの存在が社会で認められるには長い時間が必要だった。そのために苦しんできたのがホロコーストの中で生き残った子どもたちだ。最近読んだ『ホロコースト 最年少生存者たち』は、それをまざまざと教えてくれる。本書によると、子どもたちは最初、ホロコースト生存者とさえ見做されず、「むしろ運がよかつたんだ」運がよかつたのだから過去を忘れ、未来に目を向けられたいとされていた。それどころか、同じ体験をしてきた大人たちから、次の



ように非難されたという。

「当時は子どもだったんだろ。だったら何がわかる？ 覚えてないじゃないか」

子どもたちの体験をめぐって、二つの見解が鋭く対立した。すなわち、「幼少期にどんな恐ろしい戦争体験をしていようと、それが個人にいつまで影響を及ぼすことはない」とする主張と、「幼少期に迫害を受けた生存者は、生涯にわたりその悪影響や後遺症に悩む」とする主張である。なお、西ドイツの賠償事業は前者の見解を採用し、子どもたちへの賠償を認めなかった。だから、子どもたちの心をめぐる見解は、すぐれて政治的な問題でもあった。それはともかく、見解が分かれる背景には、児童精神医学、精神分析学、発達心理学などの発展過程も影響していた。というより、ホロコーストを生きのびた子どもたちについての専門的な研究が続けることで、トラウマについての理解が深まっていったとも言えよう。

賠償請求を棄却された生存者たちは不服を申し立て、一部の医師が彼らに共通する症状—不安、慢性的なうつ、睡眠障害、悪夢などに気づき、それらは決して個人の資質に還元できるものではないことを明らかにした。後に続く医師たちもまざままな調査研究を続けたが、トラウマやその後遺症に関する概念が根本的に見直されたのは、ベトナム戦争以後だという。ベトナム帰還兵は、帰国後数か月、あるいは数年後に生じた心の傷がもたらす症状に苦しんでおり、彼らへの補償を求める政治的な運動が活発化するなか、1980年に『精神障害の診断と統計マニュアル（DSM）』が改定される。改定版（DSM-III）に

は、新たにPTSDという疾患が掲載され、そこにはホロコーストを経験した大人や子どもが示した症状の多くが含まれていた。

生存者の気持ち

では、生存者たちは、こうした見解をどのよう^うに受けとめたのだろうか。トラウマに懐疑的な専門家に対して、「いつまでも消えない不安やうつ状態に苦しんでおり、幼少期の経験が人生に重大な影響を及ぼしている」と、彼らは説明した。一方、トラウマに理解を示す専門家への対応は違っていた。専門家がトラウマの症状を聞き出そうとして質問する。

「ホロコーストの影響はありますか？ ホロコーストに関連する不安や悩みは？」

「悩んで言われても……。誰にでも悩みはあるんじゃないの？」

ある女性は、インタビューにこう応じる。不安はあってもトラウマのことをしつこく聞き出すうとしたり、自分たちを異常視する専門家に対して反発し、永遠に癒やせない心の傷と考えているわけではないことを、彼らは皮肉を込めて伝えようとした。

ホロコーストを生きた子どもたちのこうした態度は、今、虐待を受けている子どもたちを理解し、支援する上でも大変示唆に富むのではないだろうか。子どもたちの被虐待体験の過酷さを正しく受けとめつつも、単なる被害者としてのみ扱ったり、正常ではないと決めつけるのは、厳に戒めなければならぬ。

【インタビュー】 長田 暁二 おめでとー 音楽文化資料博物館オープン 明治から平成まで音楽資料500冊目の出版



—日本で一番歌の上
手い歌手は

長田 文句なく美空ひばり それに鳥倉千代子が続かなあ 男性は春日八郎、三橋美智也。声、間、言葉、伝える力 うまいねえ、それに庶民が好む声を持つてるでしょう。音楽大学卒業生は一人もいない。
 昨今、歌手も起用には唄っているけれど、音楽なんだか、踊りなんだかさっぱりわからないのが多過ぎるよ。作り手もイージーに曲を作りすぎる。これからの音楽？
 どんなジャンルの音楽でも、正確な上に人の心が入って欲しいですねえ。

昭和五年生まれ 終戦直後から93歳の現在まで音楽一筋に歩いていらした長田暁二先生。
 学板橋区小茂根の自宅の一階、三階の書庫はまさに日本の音楽の歴史の殿堂、資料の山。もはやここにしかない本、レコード、CD、DVDが所狭しと積み重ね保存されている。

—この音楽資料はすでに長田先生の個人的な収集や資料の域を超えていますよね。日本の音楽の歴史、財産となっています。このまま、自宅に眠るとなるとあまりにもったいない

長田 これらは本当は生まれ郷里の岡山県笠岡市に寄贈したかったのですが、市の方があまり歓迎していなかったこともあり、平成26年2月以降是非にという熱心な江頭実市長のいらっしゃる熊本県菊池市に寄贈が決まりました。



の間アルバイトをしました。
 それがコロムビアレコード、それでも正式に入社したのは昭和28年4月キングレコード、担当が童謡部門でした。

戦後の童謡は本当にすごかった。産めよ増やせよの今の団塊の世代が幼児期になり、歌を唄わない子どもはいなかった時代です。遊びにも学校の音楽教育にもラジオにも町にも童謡だけでなく歌謡曲もジャズも民謡もみんな声を揃えて暮らして歌があった時代です。
 そうそうたるメンバーがいい詩といい曲を創ろうと青春時代を送っていた。

作詩家は、まどみちお、小林純一などみんな後の童謡界の大家となっています。
 磯部徹(平尾貴四男に師事) 宇賀神光利(親はキングレコード専属作曲家) 大中恩 (親は「椰子の実」の作曲家) 中田一次と中田喜直(父は「早春賦」の作曲した中田章) 親がみんな作曲家というメンバーの活躍はすごかった。
 歌は世につれ、時代に合わなければ歌は売れません。

時代を反映し、心のありようを歌に託していく、子どもの歌は特にそうですね。

—やがて昭和30年代テレビの時代が到来し、空前のヒットとなる子供向けテレビ映画「月光仮面」の生みの親となるわけですが

すでにたった一人でコッソツと、115000点の資料は送り済み、残り85000点、計二十万点という膨大な資料を送る 準備をしています。「長田暁二音楽文化資料博物館」としてオープンします。
 一点ずつ、曲種、作詞、作曲、編曲、歌唱者、と書き込み、唄い出し文句、と丁寧にカードを作らなければなりません。まあ、手間のかかる作業でして……。でもやり甲斐があって楽しいですよ。
 先生の綿密な準備と勉強、それを上回る整理整頓能力の抜群さ 天才的と思える記憶力の確かさに日頃から舌を巻いておりました。

—たしか先生は岡山笠岡の曹洞宗のお寺の育ち。音楽とはどんなかわりがあったのですか

長田 私、三歳で列車にひかれて足の指を切断するという事故に遭いました。

ずっと家に居て療養し痛くて泣いてばかりいたのをみて、父親が心配して蓄音機とレコードを買ってくれまして、音楽を聴く日常があったのです。寺に音楽があったかと言えば、お経のリズムは体に合ったでしょうが、それ以外はレコードで聞いた音楽、というのも、生母が、社交ダンスの先生をしていたので、音楽は切っても切れない関係だったのです。ただ、この母親とは、先に縁がなくて、父は離婚、いやあ、母性回歸はあまり記憶はありませんが、影響もうけている気がします。

—音楽とのご縁は直接には駒澤大学時代にさかのぼりますか？

長田 大学では児童教育部に属していました。子どものころ小学校で、実はいじめられっ子だったん

長田 『憎むな 殺すな ゆるしましょう』が企画のスローガン。
 ネーミングは薬師如来の教え、それも原作の川内康範さんが北海道のお寺の子、私が曹洞宗のお寺の子、西村俊一というプロデューサーもまた曹洞宗の寺の子と仏教徒関係者が三人集まって悪者をやっつけるために白覆面で作ってる月光仮面を作り出した。月光菩薩の到来。正義の味方。
 「このだれだか知らないけれど 誰もがみんな知っている」

予算がないから、有名俳優も使えない、車も買えない。新人に仮面の覆面、車の代わりにオートバイ、この苦肉の策が当たりました。おまけにカメラもないから、ニュースのカメラを回した。運と創意と熱意、子ども達に夢を与えたいという使命感に燃えていましたね、当時。
 戦後のあの頃、今と違い金がなければ智恵を使う、そんな仲間がいました、日本も前向きに生きられた時代ですね。

—音楽に関わる資料が500冊目の出版となりました。偉業だと思います。

私達ばかりでなく、日本の戦後の音楽について知りたいとなれば、先生を抜きにしては語れないし知ることもできません。

早く「長田暁二音楽文化資料博物館」が完成次第、足を運びたいと思います。

—ところで長田先生、今誰にお会いしたいですか

長田 岩城宏之さん。まあ、「ピアノ鳥とメシアン」と「ACCディスク大賞受賞、NHK交響楽団を初めて筆者が録音したこと」合唱の音楽で東京合唱団の現代音楽の指揮をされた等々 色々話したいです。

ですが、小学4年の時、音楽担当の仁科先生に長田は歌がうまいく耳もいと褒められたのが自信になっていました。音楽に関係することに進路があるように思っていたのでしょね。子供ながらに……。
 児童教育部では紙芝居、おとぎ狂言、ペープサイト(しばい)腹話術 等オリジナルな制作に取り組みました。それらは後にキングレコードで文部大臣賞受賞に輝くことになる「チュウちゃん動物園へいった」という子ども音楽ものがたりという作品に生かされたと思います。何しろ他人がやらないことをするのが戦後の生きる課題だったのでないですかね。

—敗戦とは何だったのでしょうか。少なくとも文化は勢いづきましたが。

長田 敗戦なんて知らないのよ。意識もなかった。僕は中学生3年で志願して20年8月13日夜に 呉の海軍に志願しました。15日1時120名の志願兵が当日兵舎に集められ、兵舎の地下室に入った。そこで白い米のご飯とクジラの缶詰、いくらかお替りしてもいいと、いやあ、海軍とは大したものだと思いました。そこで訓示があり、戦争は陸軍が負けたというが、これからは海軍が敵を呼び寄せ、本場の決戦が始まる。ついでには今から自宅待機してくれ」と家にかえされました。

それで、以後今まで何の連絡もありません。いわば、今も自宅待機のままです。生漕待機軍人ということになりますか。(笑)

—それで東京ですか

長田 17歳で東京、23年駒沢大学、29年結婚 そ

連載

帯津良一 太極

この道を行く（承前）



導のために全国を飛び回っています。

退院後数か月経ったところで、予定の人工肛門閉鎖術を受けました。これで晴れて完治と思いきや、どうもお腹の調子が良くないので、下痢が続いたり、時には下血すらあるの

です。業を煮やした先生は遂に私の病院に転院して来ました。
とにかく全身の状態をしっかりと把握するために入院していただくことになりました。その入院の日の先生の言や好し、

「……入院に当たって、お願いが二つあります。一つは検査にしても治療にしても、今日やらないで良いことは明日にして下さい。もう一つは死ぬときはこの病院でと決めていますので、今回死ぬようなことがあってもまったく気かけないで下さい。」

その通り、先生の入院生活は淡々と過ぎて行きます。先生の態度も悠々たるものです。少しも焦りません。時には外出許可をいただいて、二人して、町中のうなぎ屋さんに行き盃を傾けます。たまたま、はるか姫路からお見舞いにいらした河野大通老師が、二人してうなぎ屋さんに行っているのを知って、うなぎ屋さんに現われ「なんとこの病院なんだ！」とあきれていました。

広げないために、吻合部の近くにドレーンと称するプラスチックの管を入れてあるのです。

そのドレーンから腸管の内容と感染によって生じた膿汁が排出されてきたのです。しかもかなりの量です。腸管の内容を遮断しないと治らないと判断した主治医さんは吻合部の口側の腸管に人工肛門を設置したのでした。これで吻合部の感染はあつという間によくなくなって、ドレーンを抜去することができました。

しかし、これで完治というわけではありませんので、しばらくは人工肛門は付けたままというところで、楊名時先生はそのまま退院されました。ところが先生は人工肛門をまったく意に介していません。これも武道の達人ならではこのことでしょう。すぐに手術前の日常にもどって指



田幸子さんが運転を買って出てくれましたので、三人の宴となりました。

いつも乾盃の前に二人して手帖を見ながら次回の手帳日を見てから始めますので、酒宴は途切れることなく続いて行きました。先生のお酒の雰囲気は、まさに春風駘蕩、じつに心地好いものでした。先生は他人様の悪口は決して言いません。テレビや新聞で世界を騒がしている出来事にも一切触れません。さりとして、孔孟や老荘の古典も登場しなければ太極拳の話題もまったくといってよいほど現われません。そして、午後8時30分を前に、

「そろそろお開きにしましょう」と来るのです。時計を見ている風はないのでいつも不思議に思っていました。これも武道家の心得なのでしょうが、さらに、先生が全国各地を昇段審査のために訪れるときは、必ずといってよいほど声がかかってくるのです。私の役割は場合によって短い前座の講演であったり、審査員席に坐わらせられたりでしたが、先生はいつも目を細めて、うれしそうに審査を受けるお弟子さんたちの演武を眺めていました。それだけに夜の酒席も格別でした。

こうして楊名時先生とごいっしょしながらいつも感じていたのは、先生は太極拳を好きで好きでたまらないということでした。それは先生のご著書である『太極拳のゆとり』（新星出版社）を見てもわかります。たとえば、日々太極

そんなある日、朝のラウンドを終えた看護師からの御注進です。先生が「そろそろ手術をしていただくかな」と独り言を言ったと云うのです。しめたたとばかり、私も回診の時に「そろそろ手術かな」と独り言「そろそろ、私もそう思うんじゃないよ」と。

こうして満を持しておこなった手術は大成功。術後2週間ほどで先生は退院されたものです。退院して1カ月ほどして、先生からの電話です。

「体調はすこぶる良いのですが、一度、往診をしていただけませんか？」と。先生のお宅は東中野の駅の近くです。川越からそう遠くはありません。

すぐに出かけていきました。先生のお宅の居間に入った途端、往診は口実であったことがわかりました。部屋の中央にあるテーブルの上ですでに酒肴の用意がしてあるのです。先生は日本酒、私は先生の故郷の山西省の銘酒である汾酒。

「これが本当の日中友好だ！」と笑いながら、酒を酌み交わしたものでした。それからというもの、先生との酒宴は月に2〜3回のペースで6〜7年間にわたって続いたものでした。最初の頃は、私が東中野の駅から電話で来意を告げると、先生はお宅から近い大通りまで出て、手を振って迎えてくれたものでした。やがて私の病院の初代総師長である山



帯津良一 プロフィール

1936年、埼玉県川越市に生まれる。東京大学医学部卒業、医学博士。東大医学部第三外科に入局し、その後都立駒込病院外科医長を経て1982年、川越市に帯津三敬病院を設立。2004年には、池袋に統合医学の拠点、帯津三敬塾クリニックを開設。
日本ホリスティック医学協会名誉会長。著書に「代替療法はなぜ効くのか?」「健康問答」など。その数は100冊を超える。

直島便り ②1

私の命 他の命



南無庵 庵主 山根 光恵
山口県長門市出身
浄土真宗本願寺派 布教使



いつの間にか、また春が近づくと気配を感じる頃になってきた。

家の周りの、いつかそのうち草むらになってしまいうちの空地には、今、水仙の花が満開である。近所の方から「うちでは要らないから空いてるところに植えたら？」といただいたものがほとんどで、それまで草むらの中でひっそり咲いていたようだが、陽の当たるところに植え替えた途端、どんどん元気に大きくなり、年々みるみるうちに増えて、近くに立っているお地蔵さんの周りで、かわいく咲いて、ふくよかな香りを放ちながら春を待っている姿は、なんともいとおしい。

私のように園芸知識の何もない者にとって、水仙はとても育てやすい。肥料も要らないし、ここではよくある猪の被害にあわない。猪は、水仙の球根を食べないのだ。

そう、これから春の訪れとともに楽しい季節が始まるとはいえ、それとともに冬に姿を見せることのない動物や虫たちが、次々と姿を現す。中でも私がいちばん苦手なものは、ムカデである。この直島は、とてもムカデが多いような気がする。あのグロテスクな姿と動き、そして刺された

ときの痛み。これまでも、ゴム手袋に潜んでいたムカデに二度も刺されたことがある。

袋に潜んでいたムカデに二度も刺されたことがある。

はもともと田舎育ちなので、ムカデや、蛇、蚊などにも驚くことはない。「極楽寺」という、直島にひとつだけのお寺には「ムカデ絵」と呼ばれる大きなムカデの絵馬があるらしい。その絵馬の実物を見たことはないが、直島に関するあるガイドブックの中に写真が載っている。とてもグロテスクなもので、さすがにそれを見つけた時は、途端にページを閉じた。なので、写真をアップするのもやめておこう。

その本の解説によると、昔、鯛網が盛んだった頃、ムカデの足のように、たくさん鯛が揺れるようにと願いを込めて漁師たちが絵馬を奉納したらしい。

そしてイノシシ。今、直島に限らず全国の至るところで、その被害が問題になっている、夜中にそこらじゅうを掘り起こすのだ。

私の家の周りも、毎朝のように、昨日と違ったところが掘られているのを見つけた。フェリーに乗っていて、猪の家族が海を泳いでいるのを見たこともある。島から島へ泳いで、随分遠くまで移住することももあるらしい。

先日、二階から下に降りようとして、階段の踊

り場から外をみたら、道路に役場の車が来ていて、男の人がふたりで何やら重たいものを車に乗せようとしていた。そしてあまりに重いのかドスンと道路にそれを落とす。よく見ると、それはイノシシの死骸であった。近くの畷にかかって殺されたようで、役場で処分するのだろう。百キロはありそうな大きなものであった。役場の人はやっとの思いでそれを車に乗せていった。

その時ふと、「あのイノシシにも家族があったのではなからうか？」と思った。空腹を満たすために食べ物のある里に出て、うっかり畷を踏んでしまい、命を落とす羽目になったのではないか。そう思うと、母が帰ってくるものと山で待っている子どもたちがいるような気がした。イノシシは、人のものを盗っているのだという意識はない。人間が植えたものだから盗ってはいけないなんてわからない。おなかを空いたから、子どもにおっぱいをやりたいから、「おなかを満たす」という本能のままに動いたに過ぎない。

しかし、人間はどうか？ 自分の物と人の物の区別をわかっていながら、人のものまで自分のものにしようとする。それも武器をつかってまで。イノシシより、人間のほうがよっぽど自分勝手な愚かな生き物ではないだろうかという気がする。最近、移住ブームで都会から田舎暮らしにここが移住する人も多いが、自然、害獣、虫等々が寄り添っていく難しさに、とまどうことも多いだろう。しかし、一番厄介で解決が難しいことは、やはり人間同士のエゴである。「自分さえよければ」「もっとも」という欲望を解決できるのは、私の知恵を得ることしかない。そう思うと、死んでいったイノシシが無事涅槃に入りますようにと、手を合わせずにいられた。

合掌

COLUMN

「配食卒業 お疲れ様」

11月24日の配食が終了した事務所に、夜になってシングルマザーではなくシングルファザーのYさんがやってきました。彼は三人の男の子を一人で育てています。

「助けていただけののなら」と配食の支援を申し受けて二年が経ちました。何時もきちんと背広を着て、「挨拶も礼儀正しい紳士です」。

コロナでの失業、奥様の出奔、たしか実家は九州、頼るべき親戚もないようで、三人のお子さまの上の子は中学生、下のふたりはともに小学生でした。「正直、絶望してなんかいられない、意地でも子どもは育ててみせると決めました」

と最初そういつていた彼が配食の食品にどれほどたすけられていたか、を報告してくれるようになりました。たまにバイトが入り、上のお子さまが父の代わりに配食を受け取りに来ることがあり、その時の会話で、家族が力を合わせて生活していることがよくわかりました。

身なりもこざっぱりしていて、男所帯のむさくろしきは全く感じられません。「子どもは楽しい」「子育てはたしかに大変ですが、こいつらが大人になっていくんだという楽しみにあつらさなんて忘れずよ」そんな余裕すら感じられました。

「今は、頼れるものに頼らせていただきます」といつもサツパリしていました。時間外にお見えになったことで今日は遅れてきたのかと思いきや、配食をお渡ししようとしていました。

「いえ、今日はいただきません。お陰様で就職も決まり、配食を卒業できるとお礼に伺いました、いまままでありがとございました、子ども達と一緒に感謝です」

むろん、そんなことは初めてのこと、胸に迫るものがありました。本当によかった。

活動報告

■スミセイファミリーコンサート1月21日(土)

主催して頂いている住友生命健康財団からの要請は、年々衰退していく母子の繋がりを、どんな時代になっても衰退させたくない、常に原点に立ち返り構成してほしいという変わらぬ基本をいただいています。

今回は金沢にゆかりのある歌手の松原健之さんに登場いただきました。

金沢望郷歌の後、平和への願いを込めて朗読して下さった「してはならないこと」戦争のむ悪かしさ、平和を歌っている詩(松永伍一さんの詩)は観客の胸に突き刺さったようで多くの方から感動の感想をいただきました。



■わらべ歌学会 懇親会 2月5日(日)

京都にて、子守唄、わらべ歌学会の打ち合わせ、懇親会。ららばい協会からは、相川厚、井上麻矢理事、学会発起人から藤原書店社主藤原良雄、山極壽一、会長鶴野祐介、事務局佐久間憲一、応援団の画家木下晋、演出家の笠井賢一、元毎日新聞の城島徹、それに私西館好子と、多彩なメンバーで卓を囲む。春の香りが感じられる午後のとても有意義な楽しい会でした。



Naoの 長イチョイ 自己紹介

穏やかな陽気、桃色の河津桜から薄紅のソメイヨシノにバトンが変わる季節。この春、NPO法人日本ららばい協会、事務局の仲間入りをしました。Naoと申します。理事長をはじめ事務局の方々はとても快活で愉しくて携われることに嬉しさを感じています。私は長らくシングルマザーとして現在も子育てと親の介護をしています。

今日まで約15年間、大波小波を乗り越えながらも過ごしてきました。悲観的な考えで過ごす時期もありましたが、桜のように極寒を乗り越え開花しては緑となり冬眠しては花が咲き誇るように全てが経験、長い人生の一時だと振り返ることが出来ます。少しでも皆さんに寄り添える気持ちで活動していきたいと思っています。

